



吹田市「教員の働き方推進プラン」(2025年3月)枚方はどうなってる!? 2029年に月時間外30時間以上の教員をゼロに 部活動委託、小学校市費専科講師、プール、トイレ清掃委託など

吹田市は、市長と教育委員会が協議する総合教育会議で、2024年に「教員の働き方改革グランドデザイン」を策定、さらに今年3月には「推進プラン」を策定して、具体的な目標と、実現のための方策を示しています。国会で給特法が改定され、付則で2029年までに時間外の在校時間を月30時間程度にすると打ち出されていますが、吹田市では、いち早くこれを具体化する計画、プランを策定しています。

時間外を月30時間へ数値目標、取り組み期間、具体的な計画打ち出す

「プラン」では2024年度～2029年度を取り組み期間に設定。

時間外の在校等時間について右票のような具体的な数値目標を上げて取り組みを進めることとしています。

このための、具体的な取り組みごとの削減時間数の目安も示しています。

この削減目安には、「持ち帰り時間」の削減目安も挙げられているのも目を引きます。

トイレ清掃委託、徴収金も…

削減のための具体的な取り組み内容についても、学校での工夫ばかりを求めるのではなく、学校の事務的対応での「副管理者」や小学校市費講師、徴収金やプール、トイレ清掃など、お金や人をつけての取り組みが盛り込まれています。

特に、枚方では、働き方改革での組合要求、交渉で、休養室の「き」の字も市教委からは出てこない一方で、吹田では休養室の回収、エアコン設置も、当然と言えば当然ですが、もりこまれている点は、枚方と際立つ違いです。

市長が「全市一丸で働き方改革」打ち出していた枚方市でも

具体的な目標、計画の策定を早急に

枚方市ではこの間、「笑顔の学校プロジェクト」で働き方改革が進んでいると、全国的に視察が相次いでいた一方、取り組みの中身は学校での意識改革と、現場の創意工夫が大きな柱になっていました。

重要なのは、現場で担わざるを得なくなっている業務をいかに見直し、教員以外で対応できるように教育行政として具体的な目標、計画を作成して取り組むことです。

一昨年、市教委が「教員不足への対策について」を打ち出した時も、「学校で何ができるか検討しておく」ことが求められていました。また、市長も「全市一丸となって働き方改革に取り組む」ことを打ち出していたものの、

プランの数値目標

- ① 2026(令和8)年度中に
時間外・月80時間以上の教員をゼロ
月45時間以上の教員を半減
- ② 2029(令和11)年度中に
時間外・月30時間以上の教員をゼロに

主な取り組み内容

- 部活動の外部委託
- 学校副管理者の配置
- 小学校の市費専科指導等教員配置
- 学校徴収金の市教委への移行
- 教職員休養室改修、エアコン設置
- プール清掃、トイレ清掃の委託、回数増加
- SCの拡充、不登校居場所サポーター配置

その後、総合教育会議がほとんど開かれてはいません。いったいどうなっているのでしょうか。

枚方市、市教委として、一刻も早く実効ある働き方改革を実行に移せるように、数値目標、具体的方策を、現場の声をもとに、計画、プランを策定すべきです。

7-16 夏の対市交渉 職場から声を上げよう

4月から病休、その後の欠員があちこちの学校に 老朽施設、ICT環境変更での負担、具体的支援、対応策を

組合に寄せられる、現場の切実な声 現場はどこも大変な状態

7/16(水)に枚方教組と教育委員会の対市交渉が行われます。交渉に向けて、現場の教職員から、切実な声、中には、悲痛な声もたくさん寄せられています。

- 4月から病休が出てきている。欠員も広がって、その分を他の職員で担って、何とか支えている。いつだれが倒れてもおかしくない状態。
- ICTの変更で、全体への説明、研修を早く実施してほしい。市教委が紙で示した以外の機能はどこまで活用できるのか?ミライシード8月で終了と聞いているが、代替システムについても問い合わせへの回答がない。現場の先生に協力してもらい、何とか対応せざるを得ない。
- ダブルカウントの講師が配置されず、35人超学級になり、子ども同士のトラブル、子ども保護者とのいきちがいなどで、対応が困難になることが増えて、現場が疲弊している。
- 古くなっているエアコンの効きが悪く、給食を特別教室に異動しなければならないクラスも出ている。できるだけ早く新しい設備になってほしい。

市教委は、21世紀の新しい学力、探究学習、個別最適な学習、マイプラン、マイスタイル学習、子ども主体の学びへの転換、など次々打ち出し、現場に研究、研修、改善の工夫の努力や取り組みを求めてくる一方で、日常の教育活動を維持することも困難な状況、老朽化で子どものケガや命にかかわる危険性、異常な酷暑の中で、教室の空調の不具合、断熱遮熱の対応、熱中症対策など、当たり前の学校生活、安全で安心な学校施設設備など課題が山積しています。

仕方ないでは変わらない、力を合わせて、声を上げれば変えられる、

現場で起きる問題や課題を一番よくつかんでいるのは、学校の教職員です。

学校からの要望に委員会から「なかなか難しい」と言われて、仕方ないでは何も変わりません。

組合で声をあげ、粘り強く交渉することで実現してきたことはたくさんあります。対市交渉に皆さんの声を届けていきます。

あなたも、全教枚方教組に加入して、力を合わせて声を上げていきましょう

声を届けて、要求、交渉していくためにも、たくさんの教職員の皆さんが、枚方教組に加わり、意見や声をあげていただくことが大きな力になります。ぜひ枚方教組に加入して、力を合わせて声を上げていきましょう。

組合の要求、交渉などで実現してきたこと

- ◇土曜授業の自由化、土曜授業での学校の代休設定可能に
- ◇全国学力テストの自校採点の自由化
- ◇授業時数の見直し、5限授業、短縮授業など時間割設定の弾力化
- ◇市費講師の待遇改善、給与表の引き上げ実現
- ◇市費講師の府費職員と同じ内示を実現

7/20 参議院選挙 私たち、子どもたちにどんな社会や未来を 「激しい言葉で攻撃、自説を押し出すばかり」 「議論の危機、民主主義社会の危機に」ハーバード「白熱教室」 マイケル・サンデル氏

兵庫県知事選の再現に？ 事実よりも激しい言説、検証なき「真実」が拡散

ここ数年、政治の分野、選挙のなかで、支持を集めることを優先して、口を極めて激しい言葉で相手を攻撃、事実や政策の整合性抜きに自説ばかりを押し出す動きが強まっています。そこには検証が抜け落ちた「真実」が掲げられ、激しい主張が信頼の基準になっているかのようです。

とりわけ急速に支持を拡大している新興政党にこの傾向が強くみられ、参議院選でも議席を大幅に拡大するとの予想も出ています。

兵庫県知事選でみられた異常な事態が、国政選挙で再現拡大していくのでしょうか？

拡散される激しい主張、「〇〇で何が悪い、われわれの主張こそ真実」

これらの新興政党は SNS で急速に主張が拡散され、指示を広げているとされることから、「日本人ファースト」で「外国人優遇を正せ」と指示を広げている政党の SNS を見てみると、短い動画で他党を激しく攻撃、回りからの批判、疑問にも「〇〇で何が悪い」、我々の主張こそ真実と激しく、「勇ましい」主張が展開されています。

反対の立場からの投稿や選挙での動きでも、同様の激しい主張や選挙活動への対応が見受けられます。

マイケル・サンデル氏の警鐘「怒鳴りあい、自説を押し出すばかり」

「市民が互いに理解しようとする営みで、社会の合意形成をきずく必要」を強調

「欧米の民主主義国で繰り広げられているのは、もはや政治の議論ではなく「どなり合い」です。」「自説を押し出すばかり、そこには妥協も納得もない。」「正義とは、自由とは、価値観が衝突する問題に専門家は答えを出せません。だからこそ、どんな社会であるべきか、市民が議論すべきです。」「意見が一致しなくても、「耳を傾けること」なぜ意見が異なるのか、理解しようとする営みは民主主義の技芸」とその必要性を強調しています。(23年10/3朝日新聞)

サンデル氏が警鐘を鳴らす欧米の状況が、近年の選挙での動き、今の参議院での動きに重なってきます。

時とともに姿を消すバズり政治・政党、民意が揺れるたびに社会が壊れていく!?

「バズらない、煽らない」、違っても国民のため一致できる点で力を合わせる政治をハンガリーでシリアなどからの難民流入に強硬な対応で国民の大きな支持を集めて、親ロシアよりの強権政治を続けてオルバン大統領の右派政権が、強権政治への批判、経済の混迷で急速に支持を失っています。

日本でも、昨年7月の都知事選で無名候補から2位となる大きな支持を集めた候補も、見る影もないほど注目されなくなっています。

SNS に支えられる「バズる政治・政党」はいつかはその政策の矛盾で失速し、姿を消す傾向があります。しかも、その手法は「敵をつくり敵意を高めて、仲間を集める」手法で、民意がまんろうされるたびに、社会そのものが傷つけられ、壊れていくことも、欧米はじめ世界の政治で目の当たりにしてきています。

SNS でバズる政治全盛の中でも、「バズらない、煽らない SNS」を打ち出し、社会の問題の本質を、共闘、共同で変えていこうとする政党もあります。

サンデル氏も議論や民主主義のため学校が訓練の場となるべきなのに、企業の人材育成の場になり、子どもを選別している実態を心配しています。教育に当たるわれわれが、考えるべきことがたくさんあります。

全教（全日本教職員組合）の枚方教職員組合のニュースです 枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう

6月枚方市議会 過密で深刻な教室不足、東部中学は四條畷へ 「新たな支援学校建設を求める意見書」を可決

6月の枚方市議会で、「新たな支援学校建設を求める意見書」が賛成多数で可決されました。

枚方支援学校は2015年に、保護者たちの切実な要望に基づく運動が粘り強く展開され、枚方教組も保護者たちの取り組みに連携して展開された運動の末、開校にこぎつけることができました。

しかし、2024年で388人の児童生徒が在籍し、過密状態で教室不足も深刻な状態が続いていました。

府教委は、これに対して、枚方市の東部4中学校(長尾、長尾西、杉、津田)と交野市在住の高等部生徒を、遠方の四條畷校に通学刺さることで対応して、子どもや保護者に大きな負担をもたらしていました。

枚方支援学校の敷地には、「むらの高等支援学校」も併設されたため、体育館、プール、運動場、その他の教室が共用とされることで、教育活動上の不便さや負担も加わっていました。

今回の市議会の意見書では、枚方支援学校の慢性的な教室不足解消、教員不足解消のため、枚方・交野地域に小中高の知的障害支援学校を新設することを求めています。

今回の意見書は市議会の自民党と共産党が共同提出、連合市民の会以外の会派が賛成して、賛成した通で可決しており、党派を超えた保護者、市民の切実な要望が意見書として採択された形になっています。

大教組でも、府下の支援学校の新設、教室不足の解消を求める署名に取り組んでいます。

今回の市議会の意見書を大きな力に、さらに取り組みを続けていきます。

第4回まなび庵 7/19(土) 14:00枚方総合文化芸術センター別館 3階第3会議室

「子どもも大人も夢中になるモノづくり講座」

講師 名和秀幸さん(子どもの遊びと手の労働研究会) 申し込み QR

勉強、勉強ばかりで過ぎた1学期。夏休みでほっとした時に、子どものころ夢中になれたモノづくりを先生も、子どもも一緒にできるたくさんのアイデアと一緒に作り方から学べます。

学級活動のスキマ時間、支援学級での自立活動、豊かな休み時間の過ごし方、活用できることがいっぱい。明日も学校でやってみたい、作ってみたいと思えるアイデアもたくさん紹介してもらえます。

子連れ参加歓迎！保育も可能です。

夏休みの初めに一緒に楽しめる企画です。どなたでも参加できます。



大教済 Summer Party 7/19日(土) 18:00 モガ・ジョガ ダイニング (枚方公園駅すぐ)

大教済、総合共済加入者は2000円でイタリアン+フリードリンク

大教済に加入していただいている皆さんに、日頃の感謝を込めて、大教済感謝祭を開催したいと思います。加入している人なら誰でも2000円でお料理と飲み放題のドリンク

を楽しめます。この機会にぜひ参加してください。

ただし、先着30名。お早めにお申し込みください。

申し込み QR

